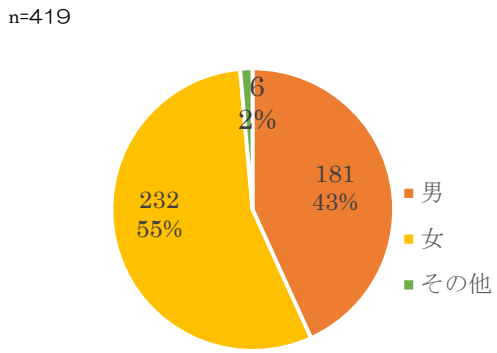
令和7年度「山県市男女共同参画に関する市民意識調査」結果

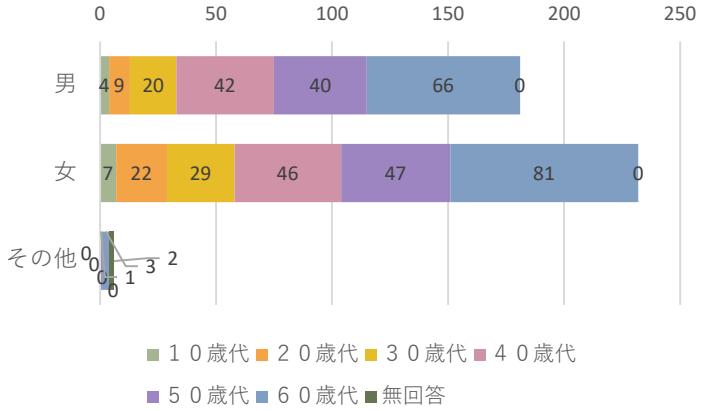
実施期間　：令和8年2月27日(金)～3月19日(木)
調査人数　：市民1,000人(男性500人、女性500人を住民基本台帳から無作為抽出)
有効回答数：n=419 人

　回答者は、男性181人、女性232人(その他6人)と、女性の方が多くなっています。また、年代別では、10代11人、20代31人、30代49人、40代88人、50代88人、60代以上150人と、年齢が上がるほど回答者が多い傾向となっています。

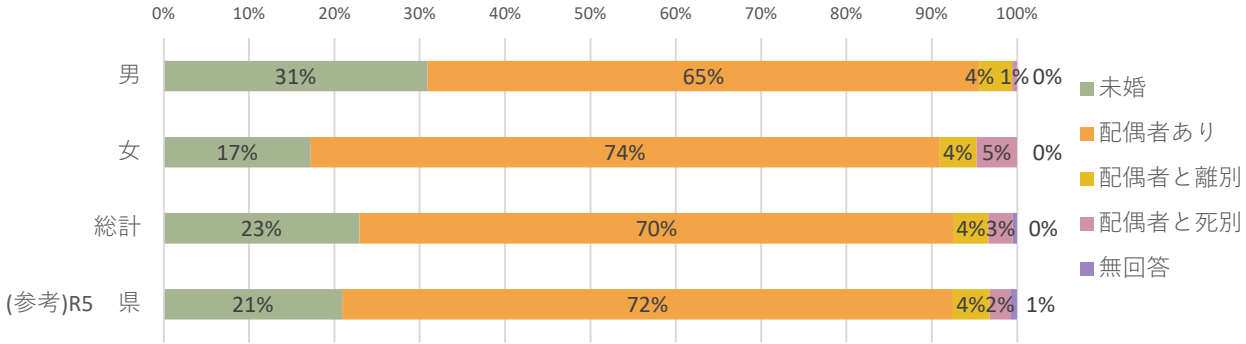
【問1】回答者属性【性別】



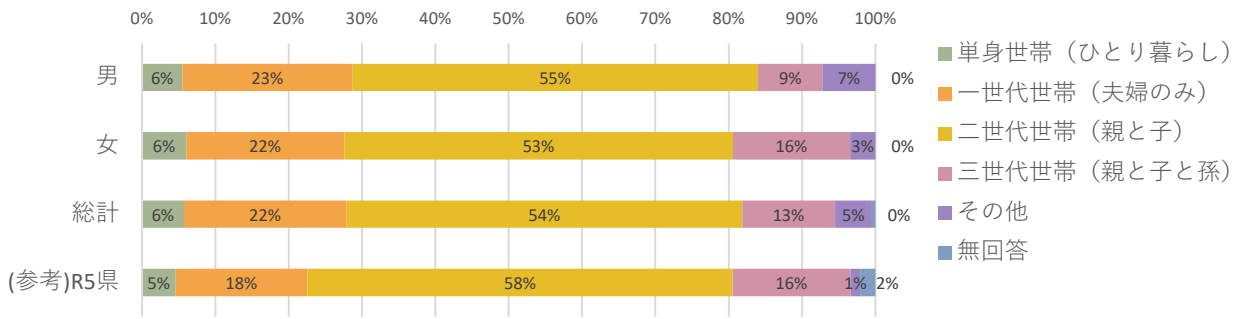
【問2】回答者属性【年齢】



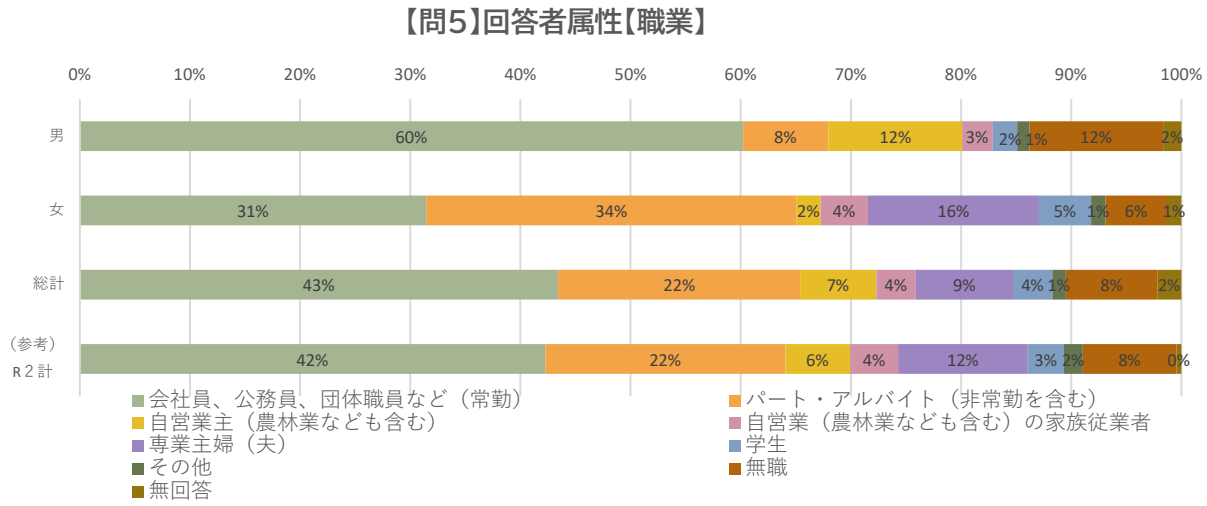
【問3】回答者属性【結婚】

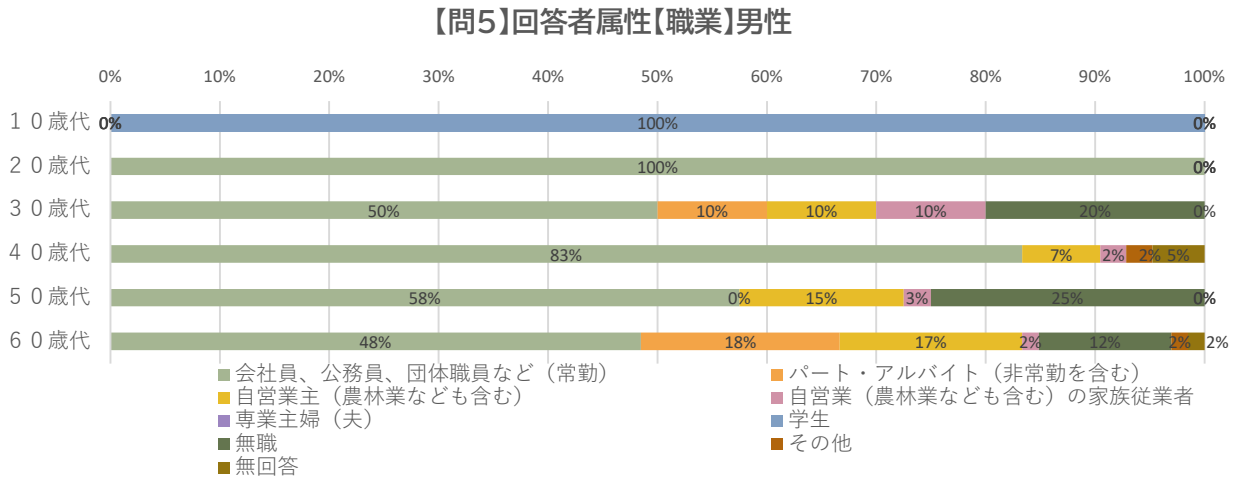


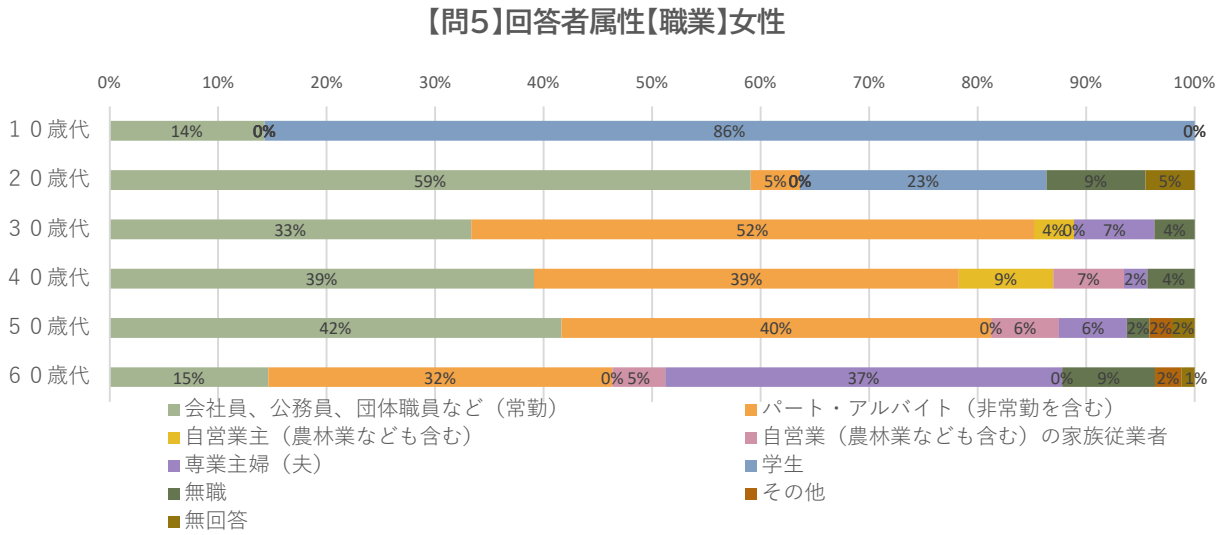
【問4】回答者属性【家族構成】



女性の常勤の正社員は男性と比べると低くなっています。女性の年代別の働き方については、「10～20代」は学生か常勤の正社員が多く、「30代」は非常勤パート・アルバイトが大幅に増加し、専業主婦も増えています。「40代」「50代」になると常勤の正社員が増え、非常勤パート・アルバイト、専業主婦は減少しています。

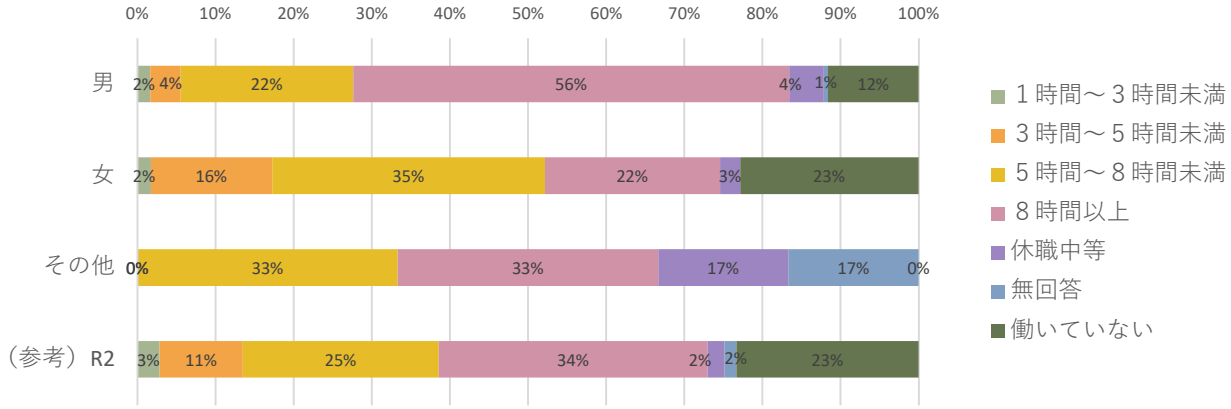




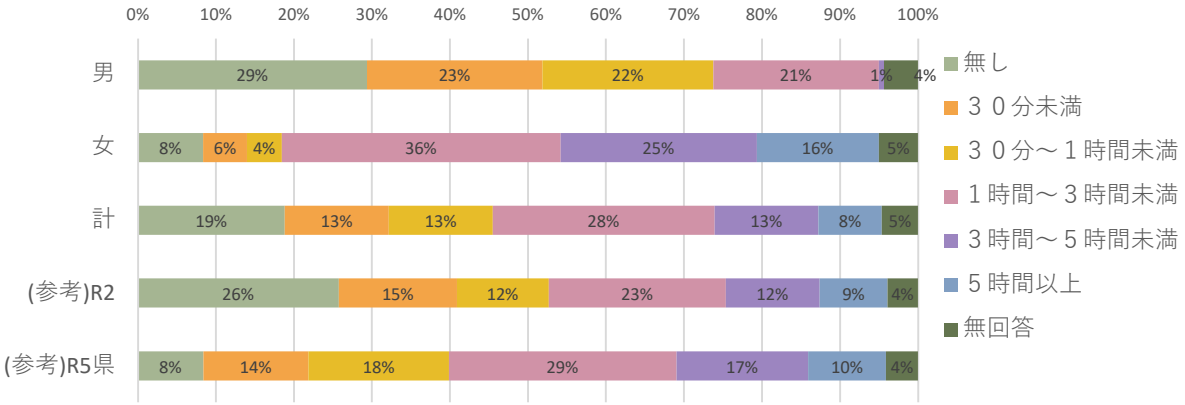


仕事に携わる時間は、8時間以上勤務している男性が半数以上であり、女性の2割と比較して男性が仕事に携わる時間が長くなっています。家事・育児・介護に携わる時間は、男性は勤務日で無しが最も多く、女性は勤務日で1時間～3時間未満、勤務日以外の日で5時間以上の回答が最も多くなっています。勤務日以外で男性は1時間～3時間未満と多くなっているが、女性の方が男性に比べ家事・育児・介護に携わる時間が長い傾向にあります。

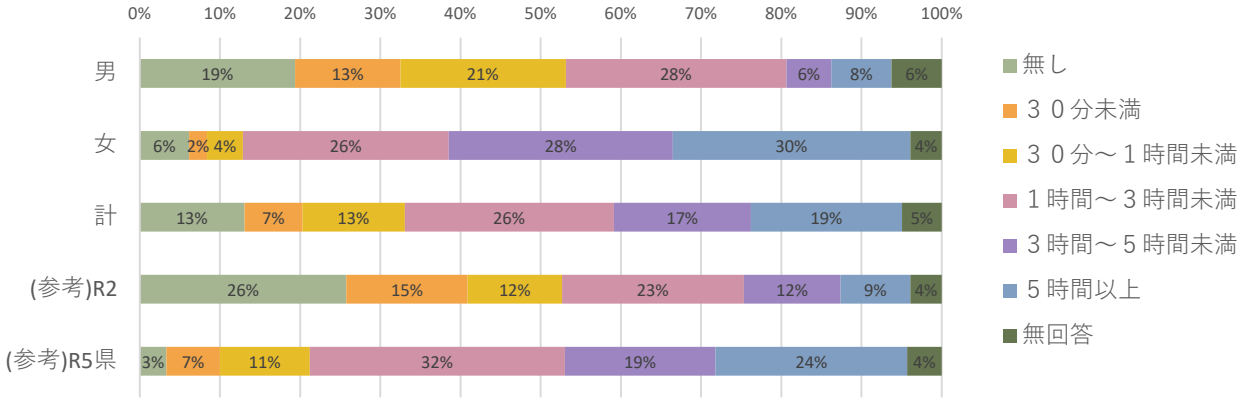
【問6】あなたが仕事に携わる時間は一日あたりどれくらいですか。



【問7】あなたが家事・育児・介護に携わる時間は一日あたりどれくらいですか。（勤務日）

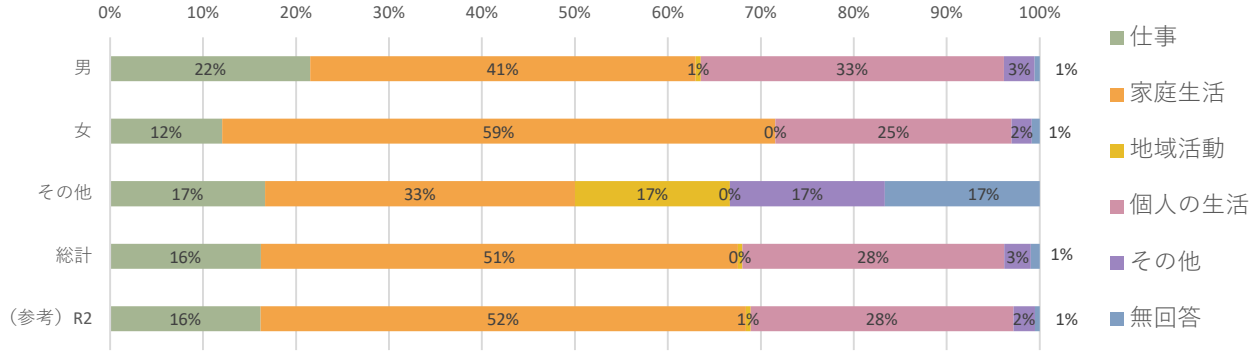


【問7】あなたが家事・育児・介護に携わる時間は一日あたりどれくらいですか。（勤務日以外）

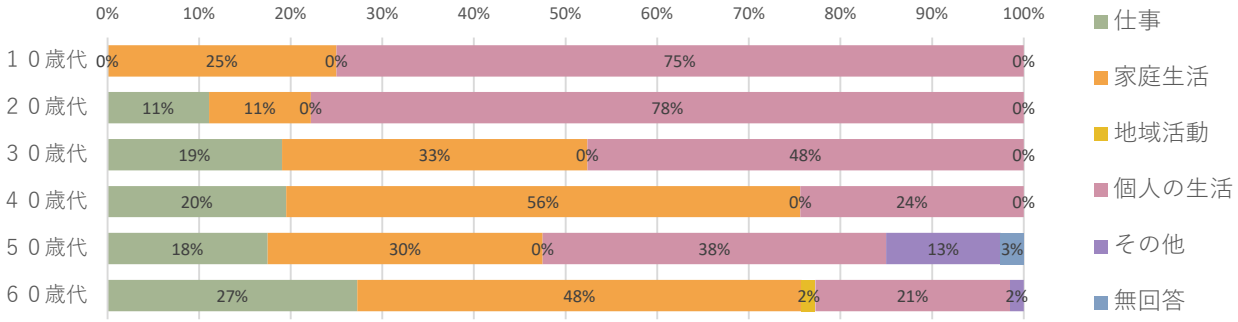


「生活の中で最も優先したいもの」については、男女ともに子育て世代は「家庭生活」多く、次に「個人の生活」を優先したいと考えられています。若年層は「個人の生活」「仕事」を優先したい人が多い傾向にあります。男女ともに家庭生活を優先したい傾向が見られます。

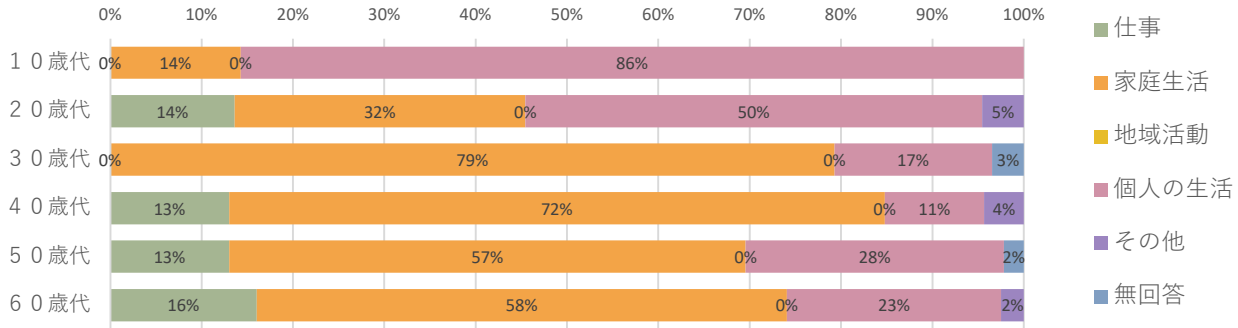
【問8】あなたが生活の中でもっとも優先したいものはどのようなことですか。(1 つ選択)



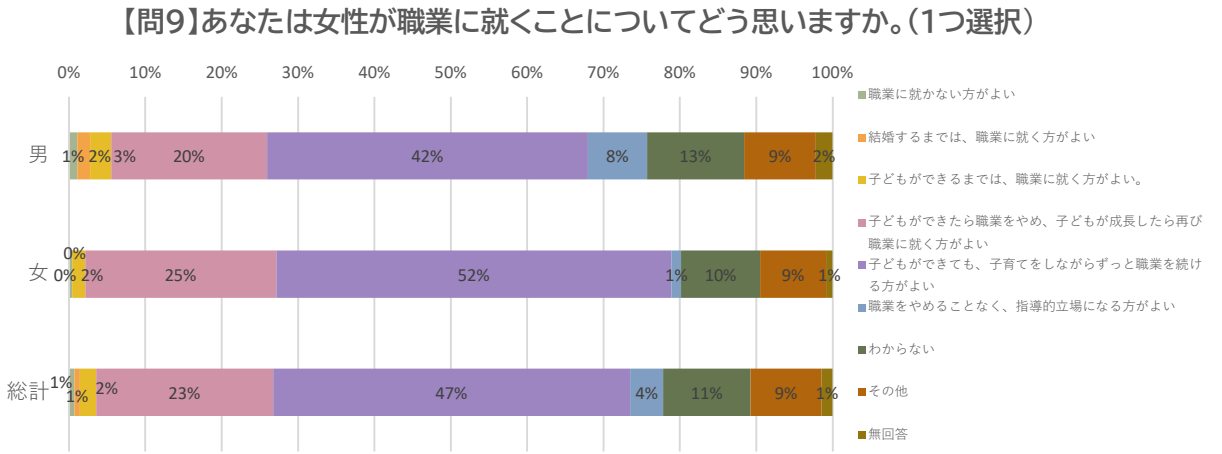
【問8】あなたが生活の中でもっとも優先したいものはどのようなことですか。(1つ選択)(男性)

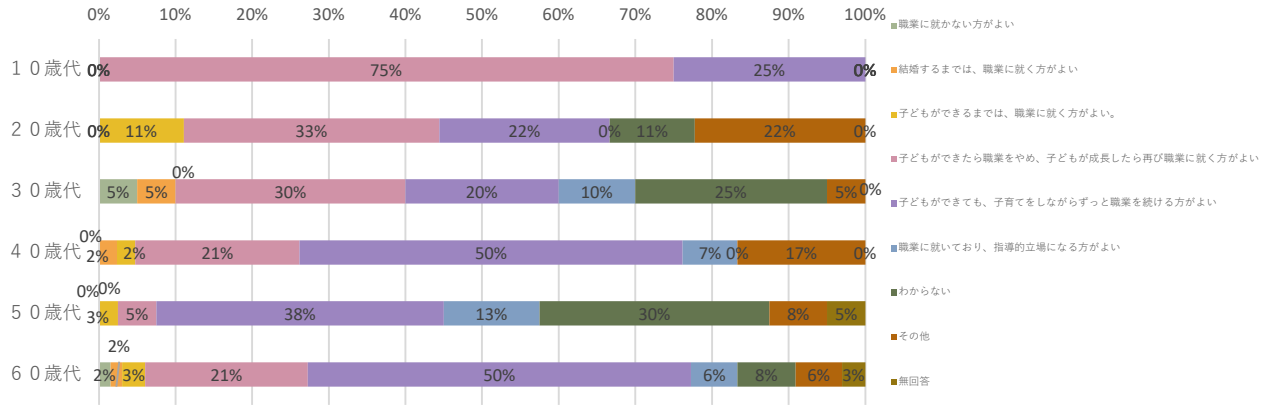


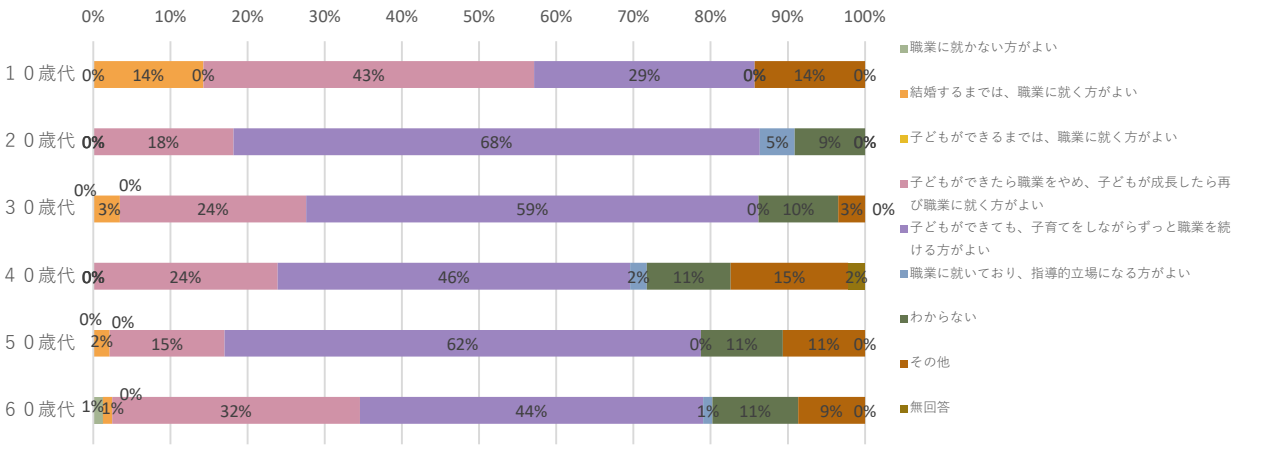
【問8】あなたが生活の中でもっとも優先したいものはどのようなことですか。(1つ選択)(女性)



男性の「10代～30代」は「子どもができたら就職をやめ、子どもが成長したら再び就業に就く方がよい」が多い回答となっています。「女性が職業を持つことについてどう思うか」については、男女ともに、「子どもができても、子育てをしながら職業を持ち続けた方がよい」が多い回答となっています。

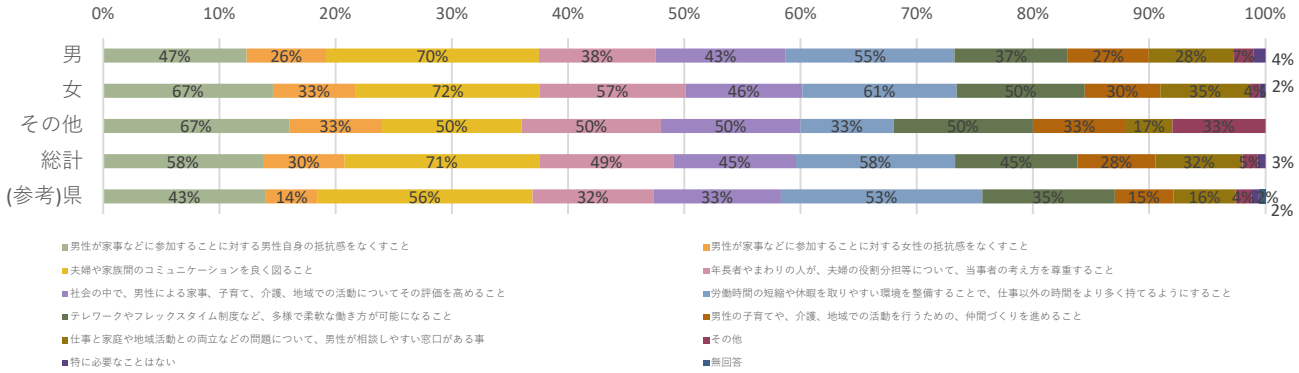




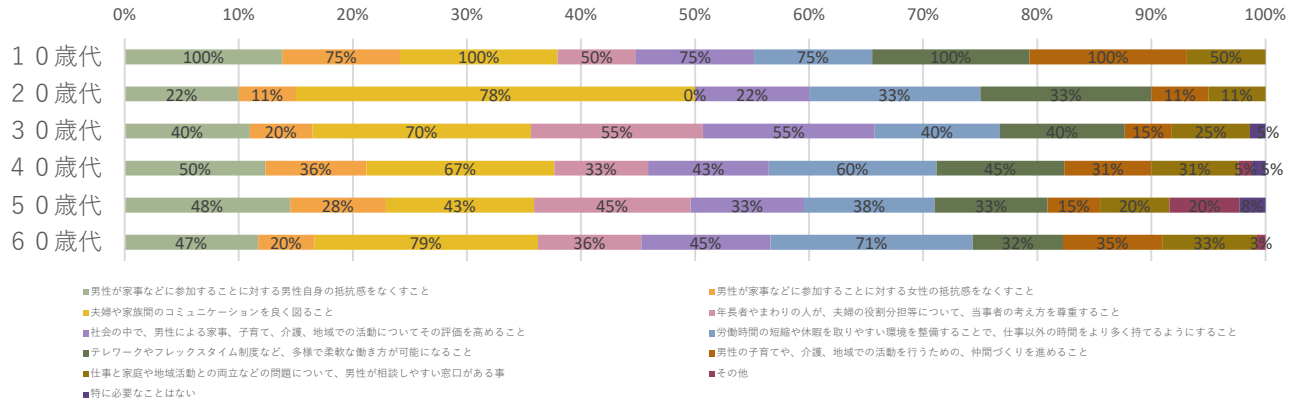


「今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思うか」については、全体では「夫婦や家族間のコミュニケーションを良く図ること」が多くなっています。また、年代別でも多くの年代で上位となっています。

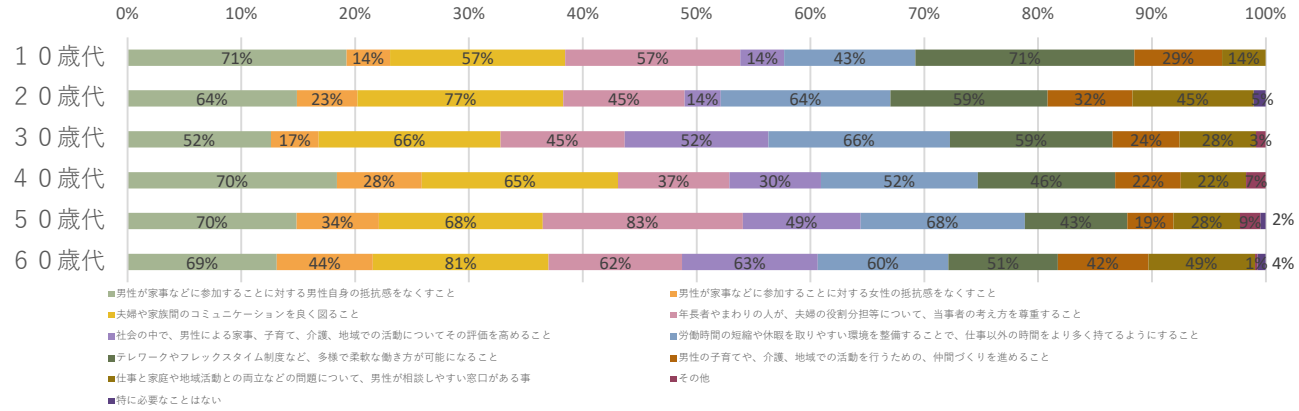
【問10】今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択）



【問10】今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）・男性

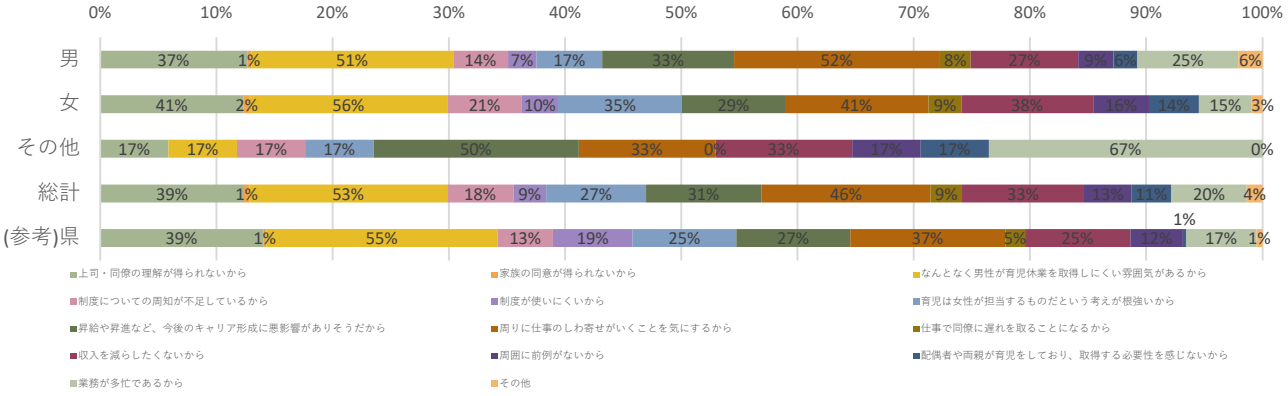


【問10】今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）・女性

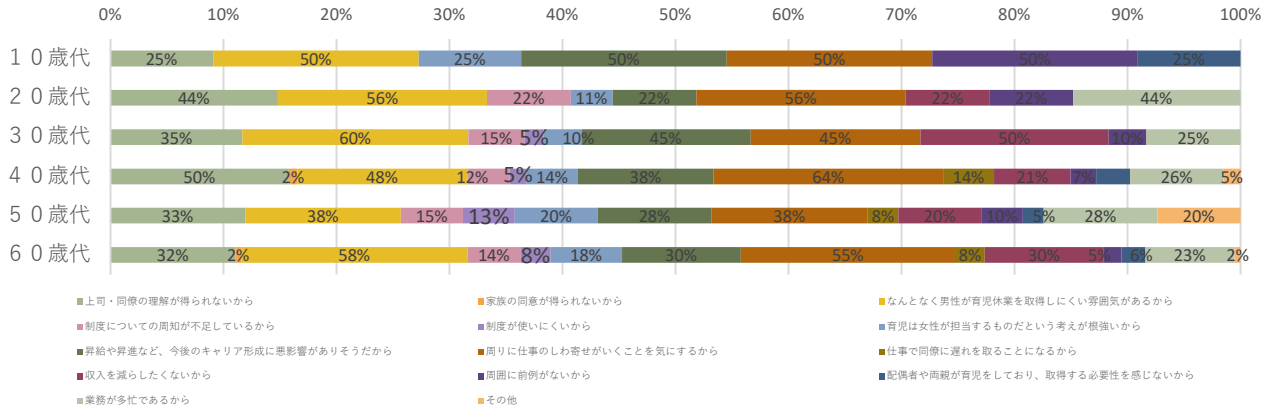


「男性が育児休業を取得しない（できない）理由」については、全体では「なんとなく男性が育児休業を取得しにくい雰囲気があるから」が最も多くなっています。また、年代別でも多くの年代で上位となっています。一方で、年代によっては「周りに仕事のしわ寄せがいくことを気にするから」などの回答が多くなっています。

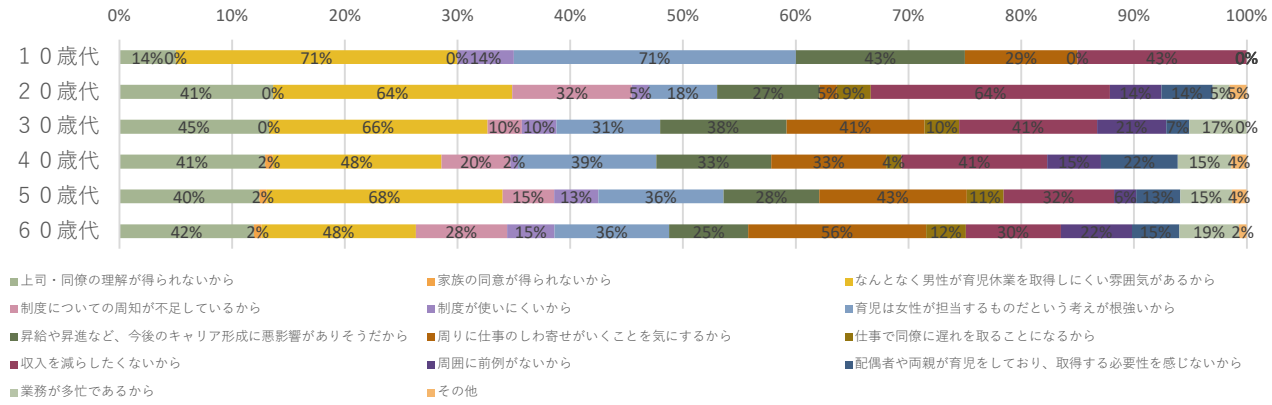
【問11】厚生労働省の「令和6年度雇用均等法基本調査」の結果によると、育児休業取得者の割合は、女性が86.6%、男性が40.5%となっております。男性が育児休業を取得しない（できない）理由は何だと思いますか。（3つ選択）



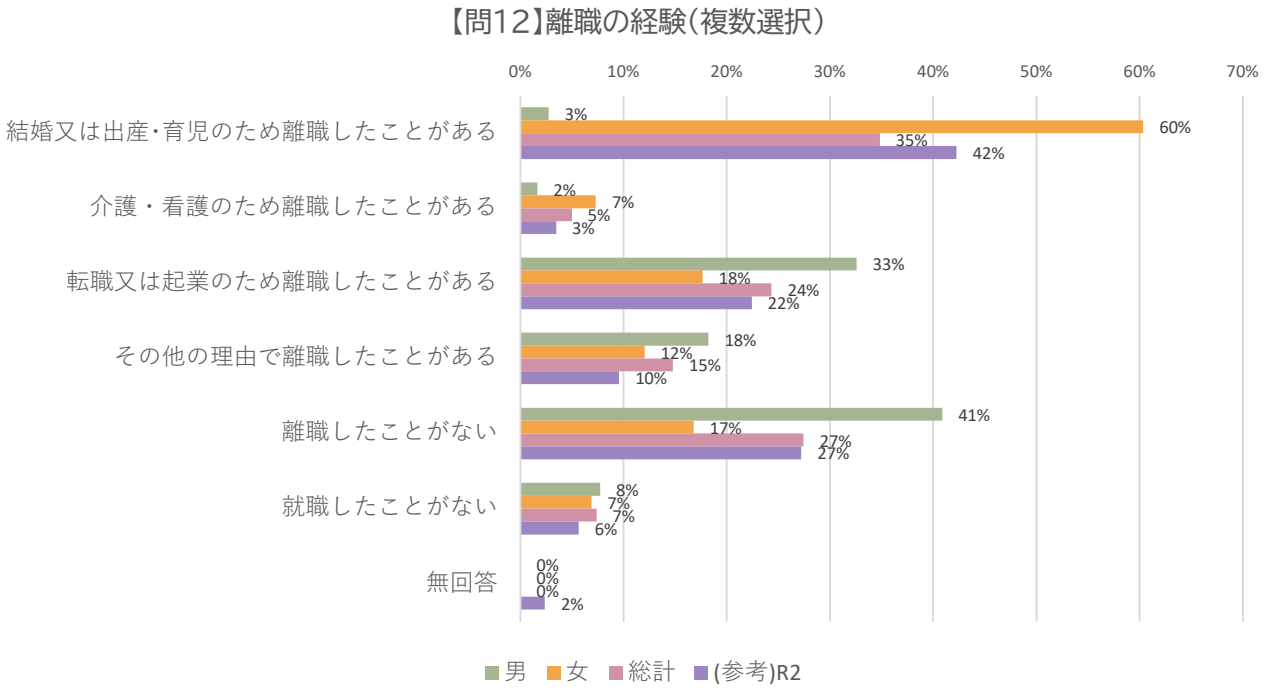
【問11】厚生労働省の「令和6年度雇用均等法基本調査」の結果によると、育児休業取得者の割合は、女性が86.6%、男性が40.5%となっております。男性が育児休業を取得しない（できない）理由は何だと思いますか。（3つ選択）男性

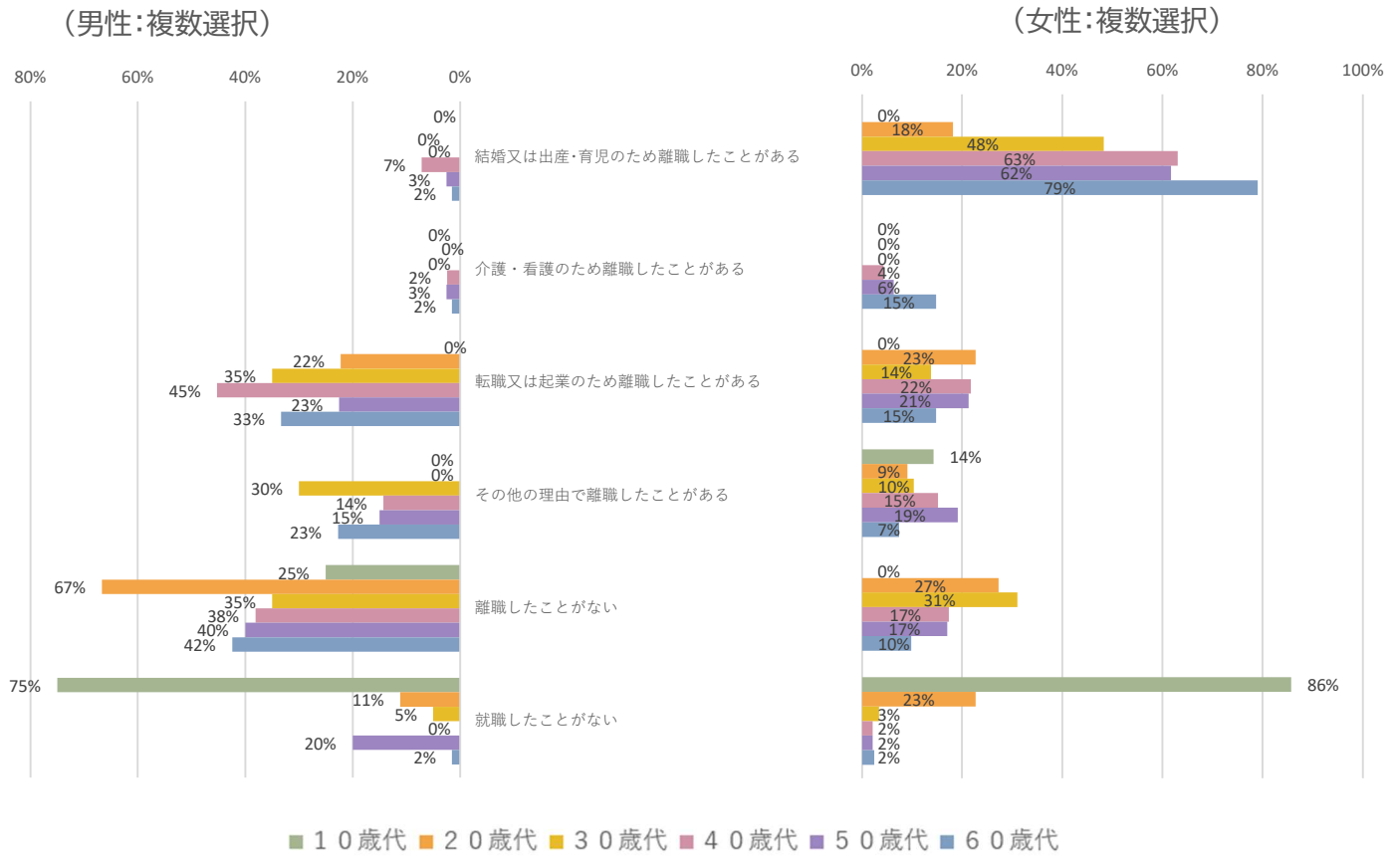


【問11】厚生労働省の「令和6年度雇用均等法基本調査」の結果によると、育児休業取得者の割合は、女性が86.6%、男性が40.5%となっております。男性が育児休業を取得しない（できない）理由は何だと思いますか。（3つ選択）女性



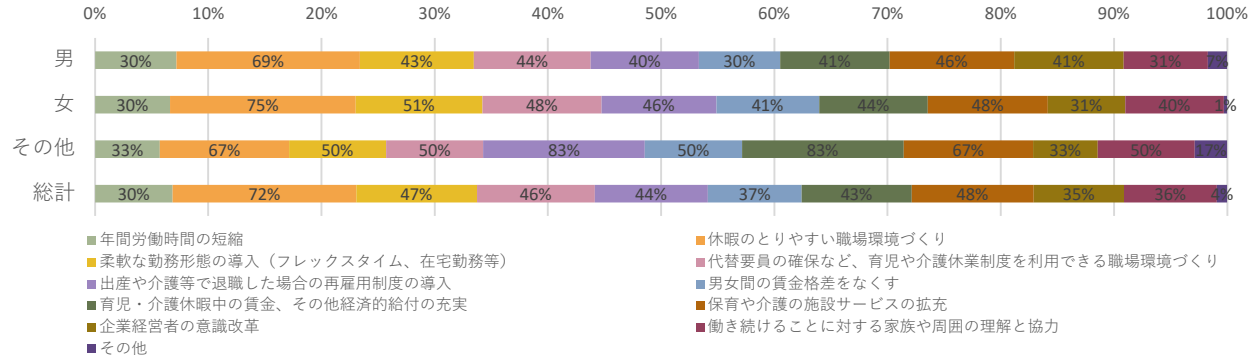
「離職」については、女性の離職理由の半数近くが「結婚又は出産・育児のため」と答えており、「子どもができても、子育てをしながらずっと仕事を持ち続けた方がよい」と思う女性が多い一方で出産子育て等のため離職する人が多い状況にあります。令和2年度と比較して、結婚又は出産・育児のために離職したことのある割合が減少しています。



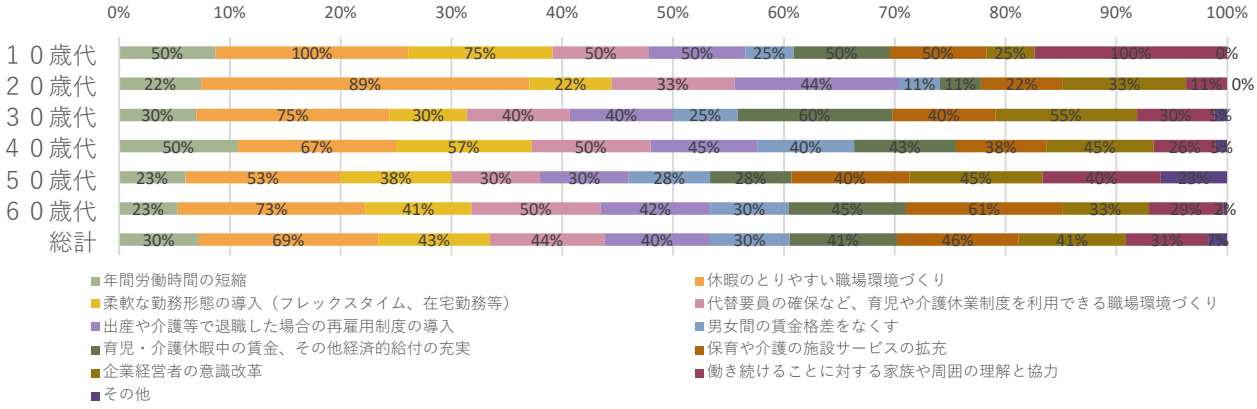


仕事と家庭を両立するためには、男女ともに「休暇のとりやすい職場環境づくり」、「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム、在宅勤務等）、「代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用できる職場環境づくり」の整備が必要と考えています。

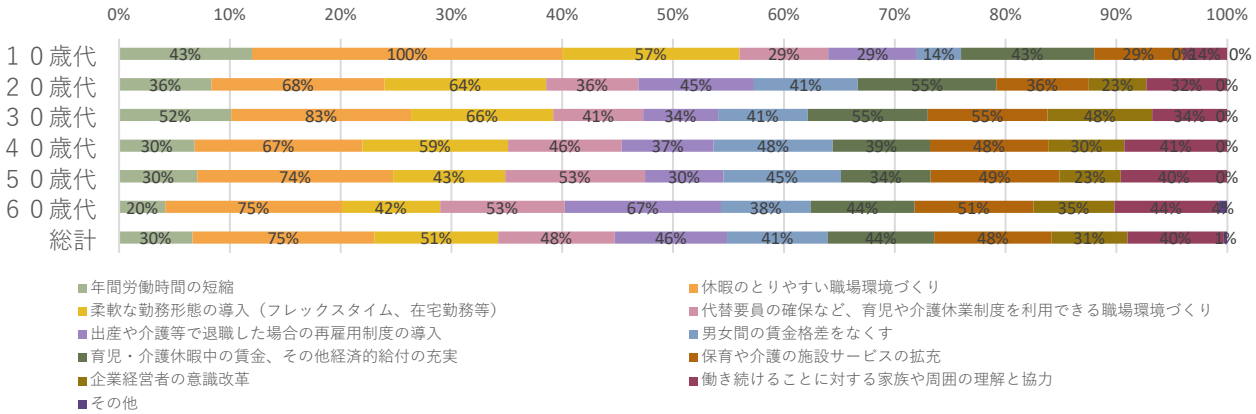
【問13】男女がともに「仕事と家庭を両立」するためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。（複数選択）



【問13】男女がともに「仕事と家庭を両立」するためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。（複数選択）・男性



【問13】男女がともに「仕事と家庭を両立」するためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。（複数選択）・女性

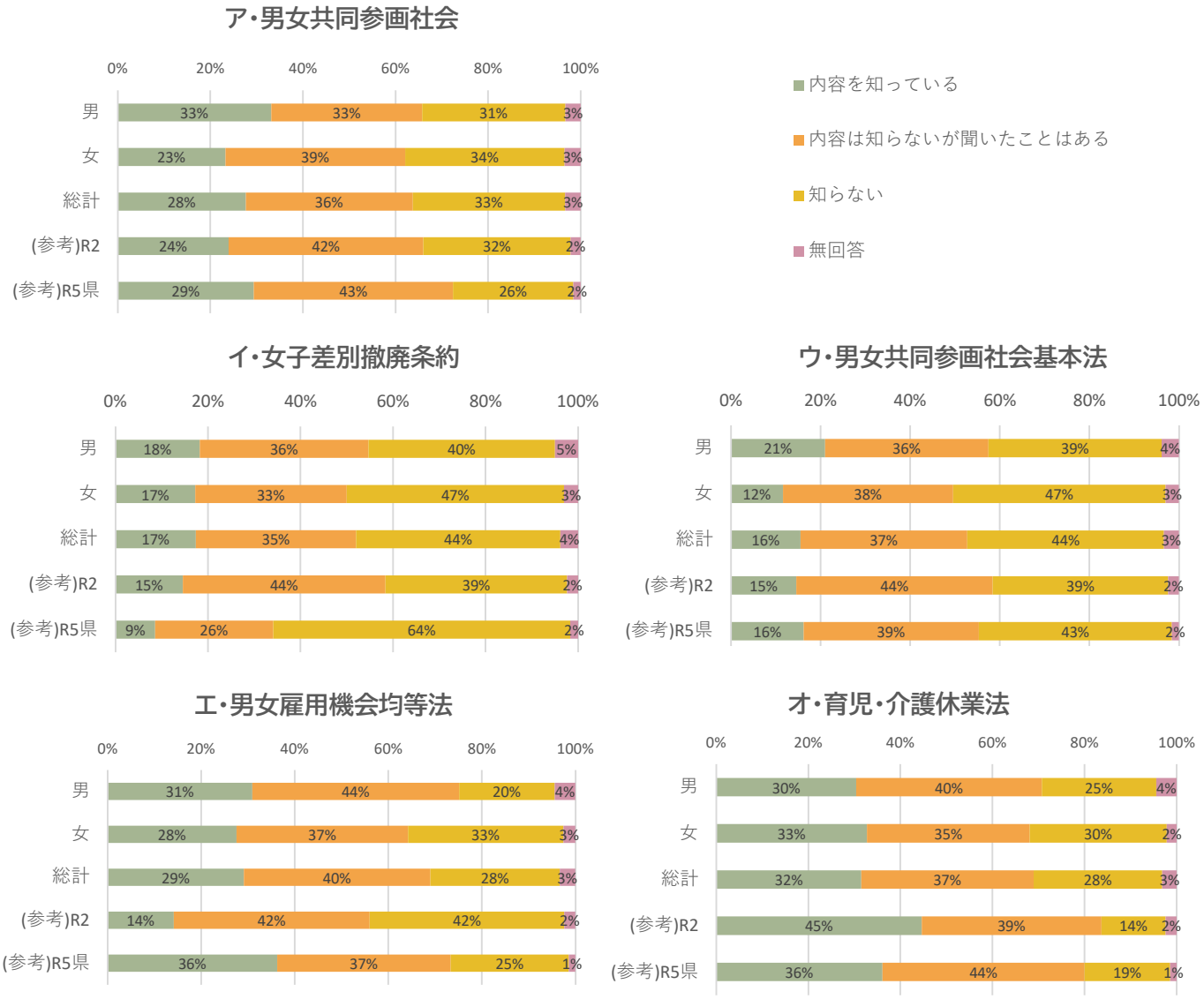


男女共同参画に関する言葉の認知度については、「内容を知っている」と答えた割合が、令和2年度の調査と比べて増加した言葉が多くなっています。特に、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」は27%から44%、「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」は42%から57%と増加しています。

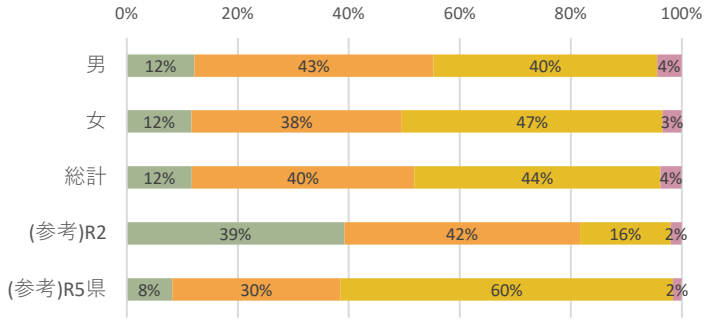
一方、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」など、認知度が低い言葉もあります。

全体として、認知度が上昇した言葉がある一方、認知度が低い言葉も多いことから、引き続き男女共同参画に関する啓発を行う必要があります。

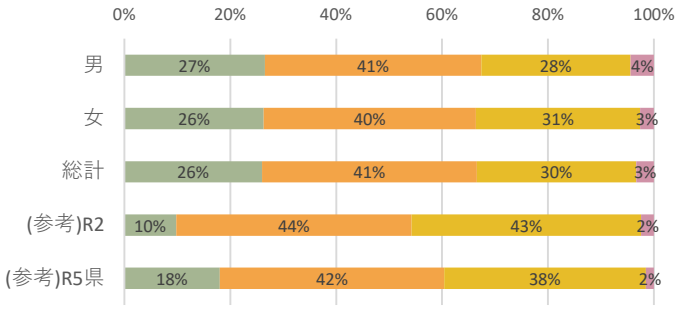
【問14】男女共同参画「あなたは、次にあげるア～スまでの言葉のうち、その内容について知っているものはありますか。



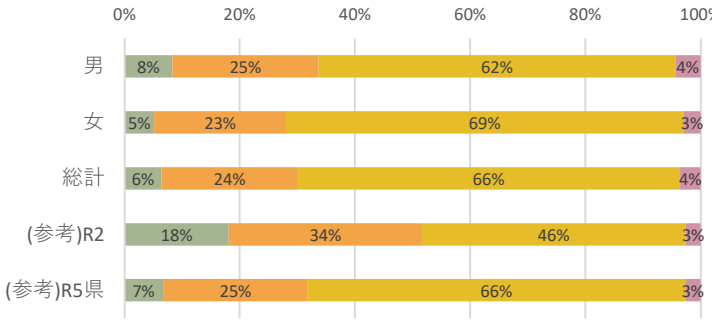
カ・女性活躍推進法



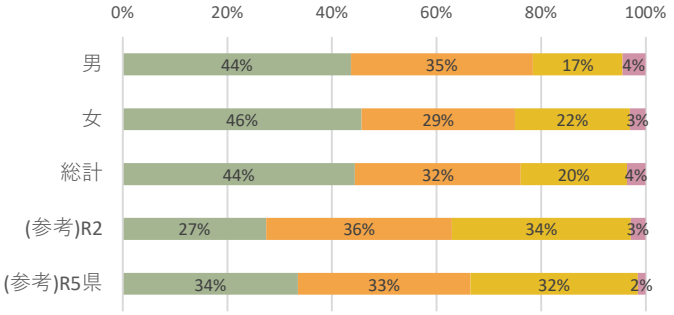
キ・配偶者暴力防止法



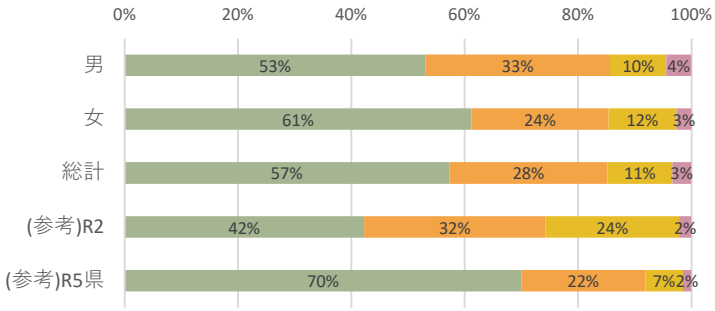
ク・ポジティブ・アクション(積極的改善措置)



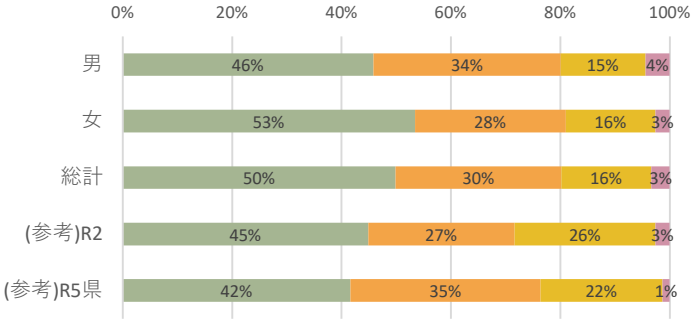
ケ・ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)



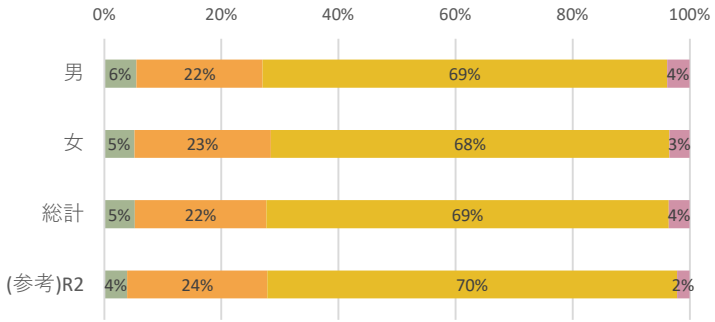
コ・ジェンダー(社会的・文化的につくられた性



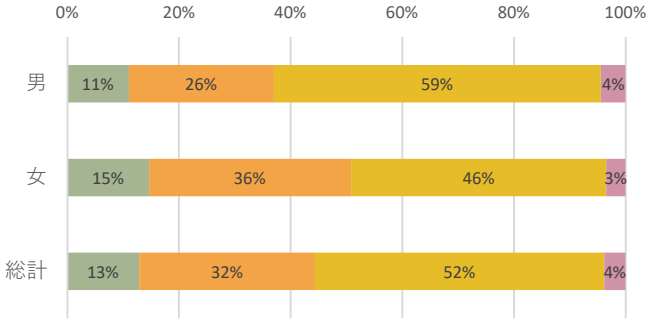
サ・LGBT(性的少数者)



シ・山県市男女共同参画プラン



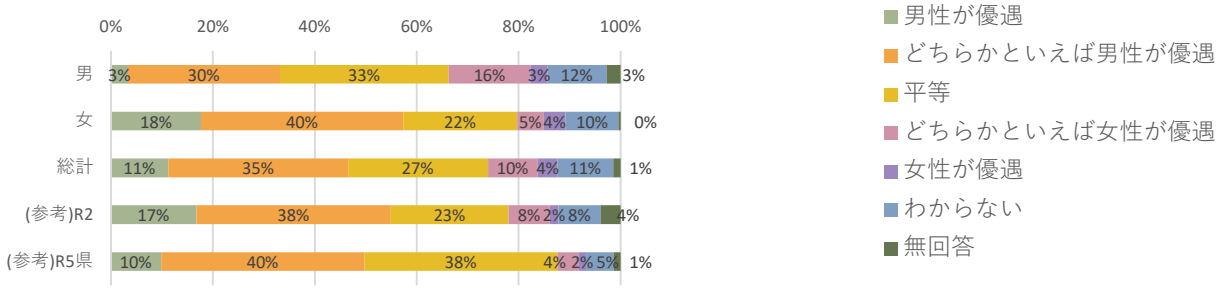
ス・山県市さくらカンパニー



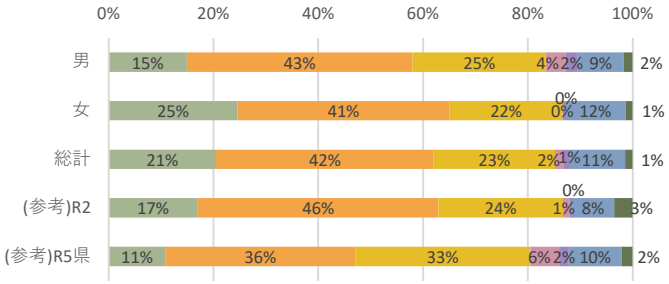
「各分野での男女の地位の平等感」については、「家庭生活の中」「職業の選択や職場」「政治の場」「法律や制度上」「社会通念・習慣・しきたり」「家業の後継者選び」「地域の中」「社会全体」は男女ともに「男性優遇」と感じている人が多くいます。これらの項目においては、「平等」と感じている割合は男性の方が女性よりも高く、「男性優遇」と感じている割合は女性の方が男性より高い傾向にあります。また、男女ともに「平等」と感じている人が最も多いのは「学校教育の場」と「ボランティアなど団体活動の場」となっています。大部分の項目では、男女ともに「女性優遇」と感じている割合は低く、特に女性の多くは依然として社会の様々な分野で「男性優遇」と感じていると考えられます。

【問15】あなたは、次にあげるア～コで男女の地位は平等になっていると思いますか。

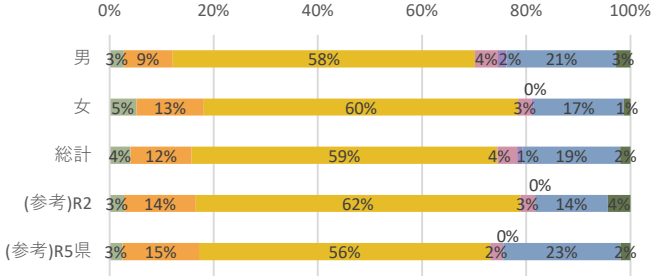
ア・家庭生活の中



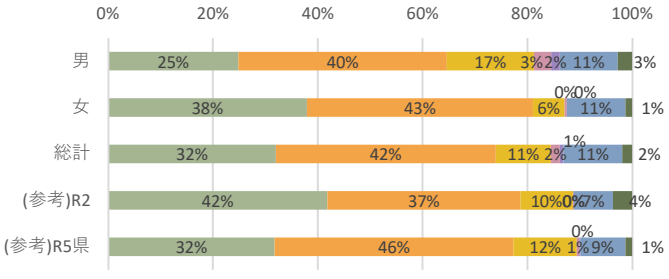
イ・職業の選択や職場



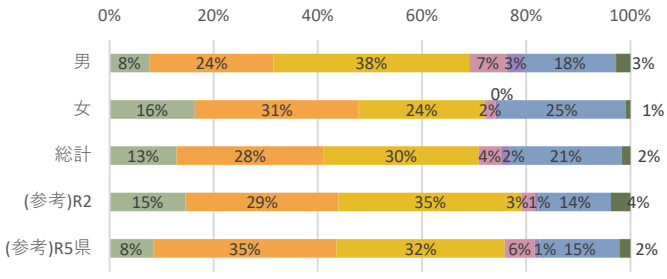
ウ・学校教育の場



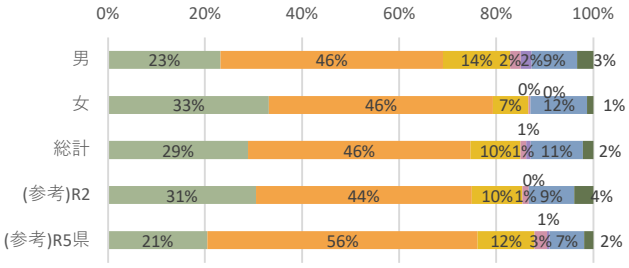
エ・政治の場



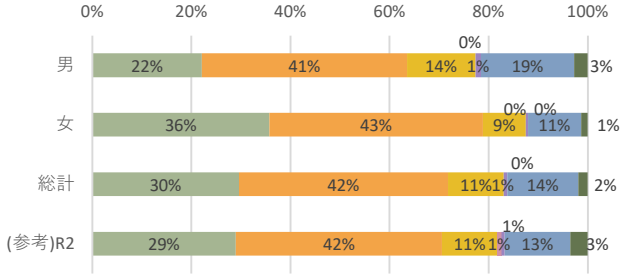
オ・法律上や制度上



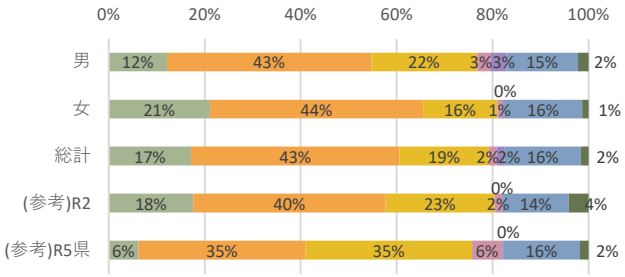
カ・社会通念・習慣・しきたり



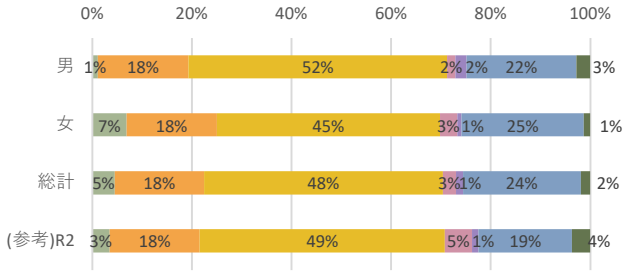
キ・家業の後継者選び



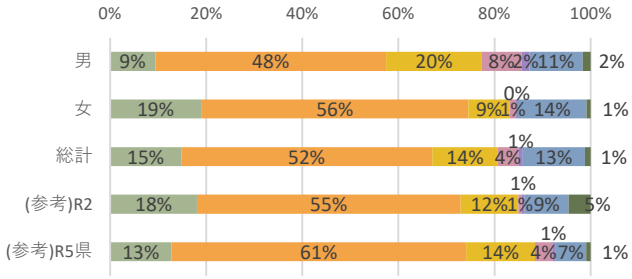
ク・地域の中



ケ・ボランティアなどの団体活動の場



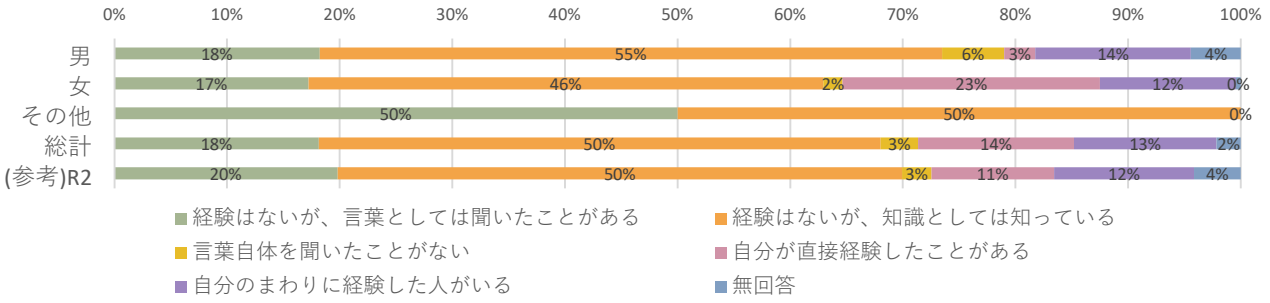
コ・社会全体



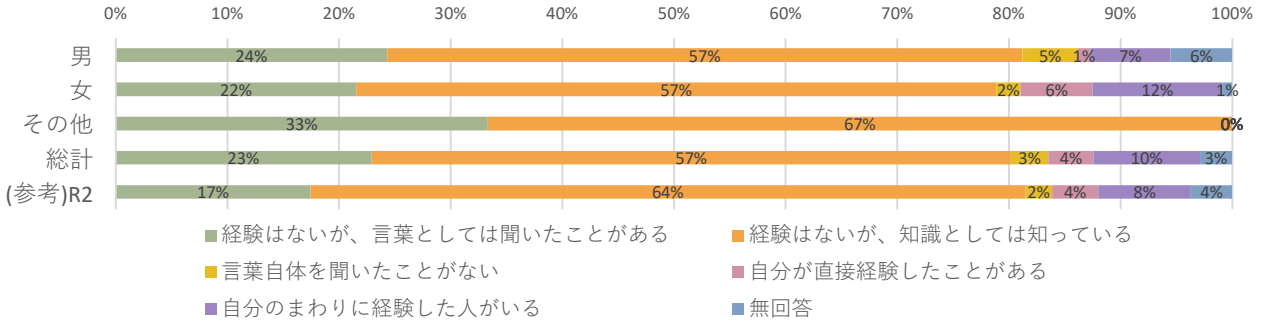
セクシュアル・ハラスメントについては、「経験はないが、知識としては知っている」と回答した割合は、令和2年度と比べてほぼ横ばいとなっています。また、「自分が直接経験したことがある」割合は増加しています。

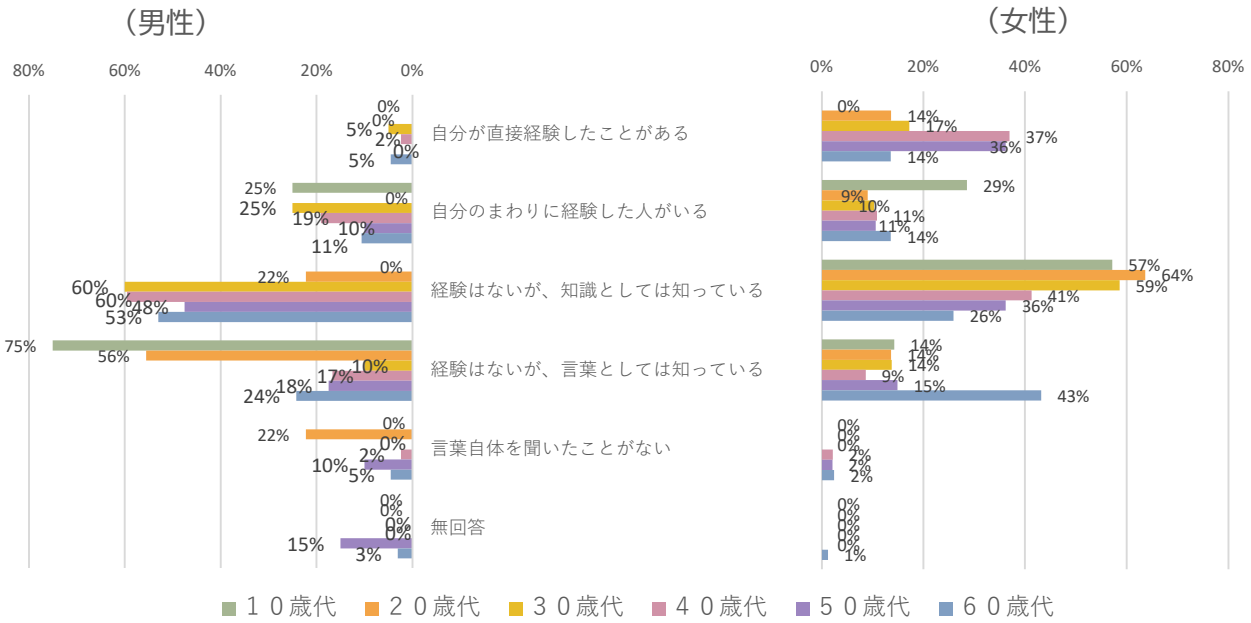
DVについては、「経験はないが、知識としては知っている」と回答した割合が、令和2年度と比べて低下しています。一方で、「経験はないが、言葉としては聞いたことがある」と回答した割合は増加しています。

【問16】あなたは職場や学校などで性的嫌がらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた経験はありますか。または、そのような場面を見聞きしたことがありますか。



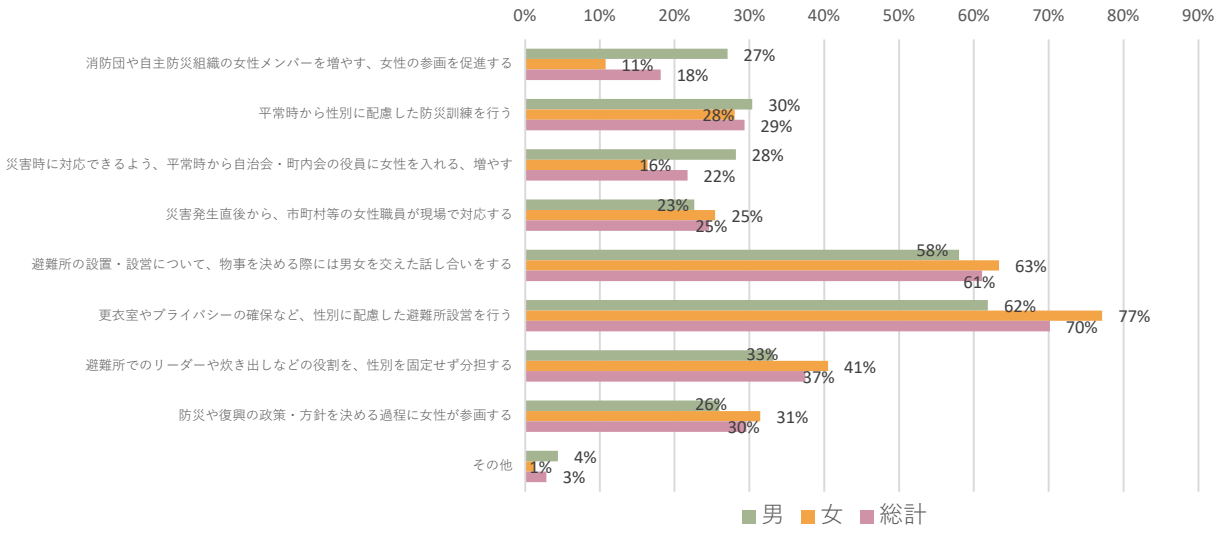
【問17】あなたは、この1年間に配偶者や恋人からDV(ドメスティック・バイオレンス)を受けたことがありますか。または、そのような場面を見たことがありますか。





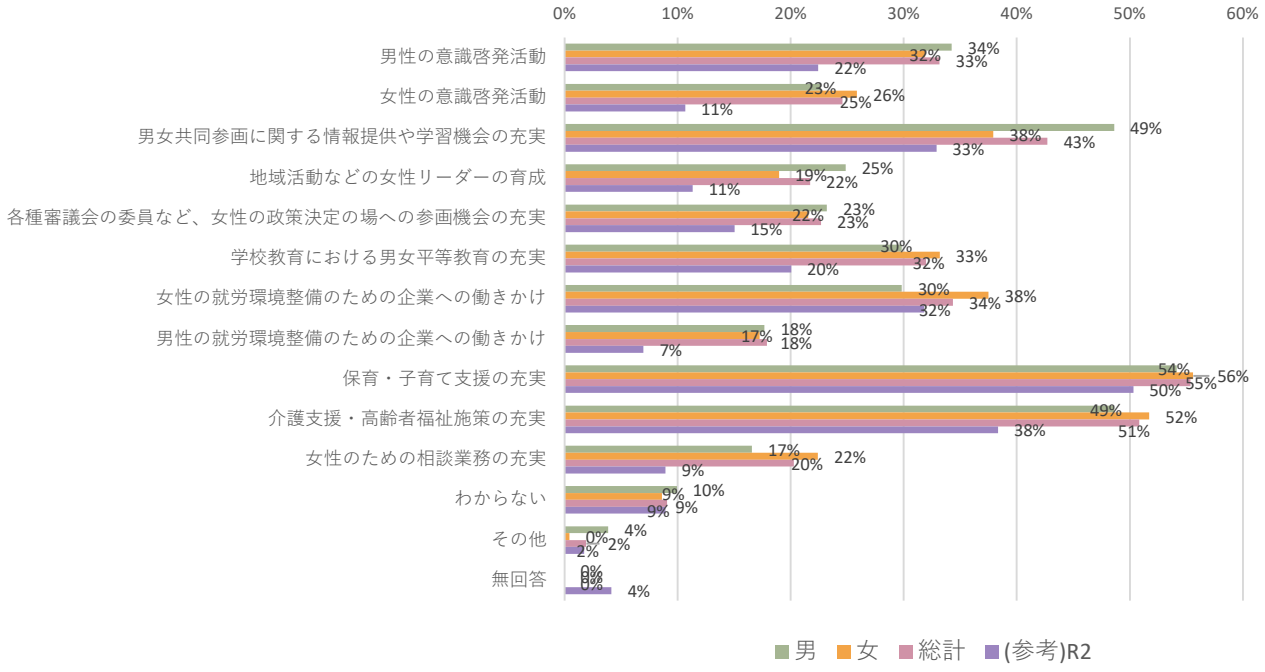
災害対応・復興対策には、男女ともに「避難所の設置・設営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所設営を行う」が必要だと考える方が多くいます。

【問18】性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためにはどのようなことが必要



男女共同参画社会の実現のためには、男女ともに最も多いのは「保育・子育て支援の充実」が必要だと感じています。その他、「介護支援・高齢者福祉施策の充実」、「男女共同参画に関する情報提供や学習機会の充実」、「女性の就労環境整備のための企業への働きかけ」だと考える市民が多くなっています。

【問 19】男女共同参画社会の実現のために、行政の取り組みとして重要な施策（3つ選択）



自由記入（原文まま）

【男女共同参画に関する意見、ご要望について自由記入】

・男女平等イコール男も女も同じという事ではない。それをわかりやすく世間に拡める活動があったらいいと思う。学校で男女平等の教えがあってからの、結婚、出産など…平等とは真逆の事をしていかなければならない事実。受け止め方がよくわからない人も出てきていると思うので、その点が解決しないと男女平等の社会は来ない。
・仕事で実力があり働く意欲がある女性に対しては男女平等にするべきだと思いますが、全員が働く意欲がある女性ばかりでは無く家事をしたい女性もいますので、同じように扱うと逆に可哀そうだと思います。また女性のリーダーが少ないと言って、女性ばかり優遇しては実力ある男性はやる気が無くなると思います。男女平等でも必然とリーダーや家事の男女割合が偏ると思いますので、割合のデーターだけで男女共同参画社会の実現を考えないで欲しい。
・必要がないと思う。昭和中期以前の社会形態のほうが日本の発展、出生率、経済成長が望めると思う。
・口だけならどんな理想でも言えるし、異性間だと自分事として考え辛いので、まずは男女のあるべき姿を決めつけて強制したり偏見の目で見たりせず、その人らしさを大事にすると言う意識改革が必要だと思う。
・どんどん女性が働きやすい環境を整えてほしいと思います。
・土地柄かもしれないが、年齢が上がるにつれて、「女性（母親）が家事や育児を行う事が普通だ」と自然に考えている方々がまだ男女問わず多い印象があります。まだまだ働きたい女性（母親）が、結婚前や妊娠前のように仕事が出来るよう、今回の市民意識調査を役立てていただきたいです。
・職場は、老若男女平等であっても、その分、母親だから子育て中だからということが配慮されなかったり、引け目を感じながら休みをとったりしなければならないなら、多くの人にとっては働きやすい、とは言えないのではないか。時短や休暇の充実など、給料は少なくなっても、雇用が継続されるなら、自分自身辞めずに続けたかなと思う。（正規だと 8 時間で帰れるわけでなく、残業プラスアルファの業務が当たり前だったので）それが可能な社会、企業の仕組みや、管理職の能力や人間性が必要だと思う。
・男女によって、向いている・向いていないという傾向はあると思います。それと格差との区別は難しいですが、少しずつ格差が無くなっていけばいいなと思います。
私は、将来もし結婚や出産を経験することになっても、仕事を続けたい考えなので、上手くワークライフバランスが取れるような仕事が増えればいいなと思います。
・山県市は保育料無償化など子育て支援をしてくださり感謝しています。しかし、夫婦共働きですが子どもの急な発熱のとき預かれる場所が少なく、仕事を休まざるをえません。共働きが増えている現在、今後も働きやすいように子育て支援をお願いいたします。
・セミナーの開催頻度を増やし、もっと周知させる事で、実現に近づくのではないかと思います。
・男女共同参画というより家族単位で自由に様々な体制を取れるような社会にしていけたら良い。
・社会はまだまだ男性が優遇されている。同じ仕事をしていても給料や立場は男性の方が上。だったら何かあった時、休むのは女に決まってしまう。給料が安い方だから。そうなると家事も女がやるのが当たり前になる。まずは金銭を平等にし、子供の体調不良や行事など、どちらが

休んでも金銭的に支障がないようにしてほしい。そうでなければ男女平等など不可能です。「育児・家事・介護は女性」という固定的な意識を老若男女問わず無くしていける具体的施策をお願いしたい。家庭のことは共同で担うという教育や、職場の意識改革を進めるなど。男性が早く帰宅して家事に参画できる早期帰宅を促す仕組み。全ての男性に家事、育児、介護を実際に体験してもらうと意識が変わるのではないか？男女の賃金格差をなくす。田舎は特に女性の方が低い賃金の傾向がある。女性が子育てしながら働くには長期の休みに子供を預ける必要がある。託児所や児童館以外にも子供を安心して預ける場所や集まれる場所（施設）があるといい。山県市では特に若い女性が都市部へ出て行ってしまっていると感じます。もっと若い人たちが住みやすい魅力的な街づくりが必要ではないか。

☆家族みんなが楽しめる施設やイベント、コミュニティが充実した場所づくり

☆誰でも入りやすい人の輪がある場所づくり

〇個人的には図書館を市の中心部（バス停留所の近く）に設置してほしい。伊自良は遠い。図書館の周りに運動場（屋根があるとよい）、そしてカフェやウォーキングが楽しめるコースがあるとよい。

・男女共同参画や男女平等を主張する行政や企業、その他の様々な団体や社会において、女性の役員や委員への登用など、活躍できる場面を創出したりしていることは評価できるが、その一方、力仕事や汚れ仕事などの過酷な業務、夜間作業などの危険が予測される業務については、女性に任されることはとても少なく、男性に偏っていると感じる。
本当の男女共同参画や男女平等を目指した施策を考えるのであれば、男性女性それぞれにとって、プラスとなる局面、マイナスとなる局面、全てのことが平等であるべきではないでしょうか。女性が力仕事や汚れ仕事などの過酷な業務、夜間作業などの危険が予測される業務などを嫌って積極的に働けず男性任せな意識がある以上、男女共同参画や男女平等を考えず、以前のままでいいのではと思う。一般的に男性にしかできないことや男性に任せた方がいいこと、逆に女性にしかできないことや女性に任せた方がいいこともある。差別は反対だが、無理に女性を登用したり活躍の場を創出したりするのではなく、男女それぞれにおいて自然な社会を形成して欲しい。
・男が大黒柱という意識はとても感じる。子どもがいると女は家庭という意識があり、フルタイムで働くことが難しい。短時間でも給料が高ければ、男女共にもっと家庭に時間が費やせるのになと思う。
・子供がいる家庭といない家庭の考えかたが大きい。また独身と既婚者との考えも違う。独身者は社会参加が非協力である傾向がある。社会参加は平等にすべきである。独身税を設置してほしい。
・男性側の意識改革に加え、女性側も意識改革をしなければならないと思う
・女性に無理をかけない事が重要。共同参画を求めていない人がいるなら、その意見も反映すべき。
・子育てをしていく中で今の世の中の流れだとどうしても、母親の方が参加する行事が多い気がします。そうなった時に利用出来る制度、延長保育や学童などを利用するのにももう少し利用しやすくして欲しい。（学童だと店員オーバーなどの解消など）そうすることで母親も選べる職種が増えると思います。
・前提として性別で不条理を被ることなど言語道断であると明言しておくが、現実として男女でできること、できないことの違いがあることも事実である。議論をするならばこれを加味し

た上でどちらかに負担を押し付けない選択を模索するべきだと思う。もう 1 つ。こういった議論の場でよく見られる現象として、過激で極端な思想を掲げる団体、著名な個人がどちらかの性別に片寄った暴論で議論の場を乱し、結果なにも進展しないどころか両者の溝を深める結果になるというものが多々見られる(主に SNS、ネット討論番組等)。
まずは議論の場を整えるために、そういった連中の押さえ込みをするべきだと思う。場合によっては司法が然るべき罰を与えることも必要であると思う。
・色々知らない事が多いため、もっとみんなに知ってもらえるよう、行政、企業からの発信が必要だと感じた。
・特にない。言ったとて上がだめなら、意見は反映されない、こんなアンケートして何がしたいのかわからない。
・子育て世帯です。親が共働きで大人の自由がきかない場合、子どものいろいろな選択肢が限られてしまいます(送迎や係が必要な習い事やクラブは選べないなど。)
大人の都合で子どもの選択肢が限られるのは良くないなと思いつつ、仕方のないことなのかなとも思います。その辺のことがうまく回る社会になっていくといいなと思います。
・〇男女ともにそれぞれの意識の改革なくしては共同参画は難しいと考えている。
〇いつでもお互いに相談できる地域社会となることも大切である。地域の力が弱くなってきている。
〇日常的には仕事に時間が割かれることが多いため地域社会の一員として動くことが制限されることもある。地域活動に協力できる人材を大切にする企業風土の醸成が必要だと思う。そのためには、休んだ人の仕事を他の人ができるような組織のあり方も考える必要がある。
・結局のところ、男がやったらやったで文句言われるし、やらないなら文句言われる
会社でも家庭でもね。
・男女平等といっても、それぞれができないこともある。すべてが平等というわけにはいかないが、会社や社会がそこをきちんと理解しないと、変な誤解が生まれてしまう可能性がある。それぞれに向いた仕事もあるし、やるべきこともある。広い視野で考えるような社会になってほしい。
・男女等では女性の権利を主張する事が多いが、勝手の良い時は女性だからという考えがある気がします。男性性の権利も大切。
・男女の定義もアップデートしていく時代が来ていると思います。このネーミングでよいのか…というところも考えるべきなのではないでしょうか。男女という区分よりも、一人一人皆が暮らしやすい社会を目指していきたい…ということだと感じます。
・山県市の健康診断が 2 年に一回になり信じられない。子供ばかり優遇している気がする!引っ越しも考える。他の市町村より山県市は大人世帯にプラスが無い。交通の便が悪いから 60 才以上はバス代手当て、パス券など配ってほしい。60才以下でもバス代補助を出して欲しい。子供は子供手当ももらっているから支援は不要だ!
・山県市の健康診断が 2 年に一回になったのは納得できない!子育てばかりに優遇するのはおかしいと思う。大人世代も大切にして欲しい。子供に支援しても市外へ行ってしまう。健康診断を年一回に戻してほしい!!
・高齢者をまず、意職改革をしなくては、このアンケートの内容はできません。「昔はこうだった..」と言われ、年長者が町内を支配する現状で、何ができるのですが?町内に振り分けられて

いる「役」をへらして下さい。体育行事も 60 代がむりしてやらないといけないので、体育行事もなくして下さい。「町内の区分け」も、となりの町内と合併し、高齢者が、町内の役をやらないかわりに若者に多大な負担がかからないようにかえて下さい。そうすれば「家庭、仕事の両立」はできます。現状、介護を 10 年以上在宅でしました。そのために仕事をやめ町内の人にいじめられ、パワハラにあい、強制的に町内の「…役」をやらされました。山県市は高齢者が多いため、「昔はこうだった…」と言われ何も決められず辛い思いをしました。「今は」ちがうと思いますが「˜町」と「…町」がくっつくこと（となりの町内や近くの町内と合併する）がよいと思っています。いつかはやらないといけないと思いますが、町内に若い世代が残らないことを考えてください。まずはこの辺の整備をし、高齢の方への意識をかえる事が良いです。
・男女共同参画社会がどういうものかわからないので聞くことがわからない。
・制度のこともよく知らず、何が問題なのかもわかっていません。みんな個々の事情もそれぞれだし、まあまあでいいんじゃない？
・男性の良い所、女性の良い所、男性にしかできないこと、女性にしかできないこと。それぞれの特性を理解していれば無理に平等にする必要はない。私の会社は 9 割が男性です。平等に扱って欲しいとは思いません。各個人の特性を生かし母親としてできることをしているつもりです。
・最近は、男性の方が社会の中で、生きにくい世の中になっていると思います。男女、特に若い世代ではかなり平等になっていると思います。女性の中には社会に出ようと思わない方も、相変わらず隠れています。男性が苦しみを訴えにくい世の中のようにも感じます。
・山県市さくらカンパニー認定制度は、広報でよく見ますが、まだ少ないと感じています。女性が子育てと、家事の両立が大変だと思いますので、男性と協力しながらやっていきたいですね。
・制度が性によって制限されるのは許されないが、各性が持つ特性は一番に尊重される事だと思います。
・男女共同参画社会という用語がすでに時代遅れなのかもしれません。本用語は、日本人の在り方を問い始めたことにより生まれたのかもしれません。人が急速に減り、働く人がなかなか見つからないのが普通になり、外国の方の活躍も必要な時代です。山県市は、子育てではなく子育ち、親育ちという視点も提案されました。年令や性別、障害の有無に関係なく、互いに分かり合い尊重し合い助け合っていく地域共生社会を推進していく時代にあり、もっと先進的な山県市ならではの指針がまとめられていくことを期待。
・まだまだ女性は家庭、男性は、外で仕事という昔なからの意識が根づよく残っているのでまず、ここから直していかないとなかなか理想の社会は作れない様な気かします。
・女性も職場で活躍とか男性も育事、と云うように主語を性別にして議論することは、その役割を終えた思う。本当に大事なのは、自分がどうしたいか、と云うことだと思う。
・女性は結婚後出産、子育てをする上で養育してもらえる環境にない民間の女性特に中小企業非正規の女性達は、大企業公務員方々の恵まれた手当が少ない場合が多く、不公平を感じます。女性に仕事出産、子育てを強いるのは無理です!皆平等にならなければ少子化は進む事になります。極端な事を言えば男性の方々も出産が経験可能であれば理解できると思いますが・・・
・山県市は子育て世代を応援してくれているのは、ありがたい事ですが、世代が上の方々は、男がエラい。女は、補佐役的なとこが多々あります。山県市の今後、現子育て世代を大切りしていただきたいです。

・多様性を認め、助け合いのできる地域社会になりますように。
・話が、意味わかりませんでした。こんなに大きなことでなく、例えば退職した男の人だけ（年齢制限なしで）の料理教室、栄養教室とか、そういことを企画してほしいです。・・・これ要望です。
・健常者に対してのアンケートの様な気がする、障がい者の方にも男女がおられる、特に大地震時どのように行うのか？この様な方々の方施策、整備等の事も考えて欲しいものだ健常者の考え方、障がい者の考え方も聞いて欲しいものだ。
・今回に直接的ではありませんが子供を生みたい。子育てしやすい活気ある山県市にしてほしいそうすればおのずと、皆が色々なことに参加して今回アンケート内容にも充実してくることが多くあるのではないでしょうが山県市から出て行かない、山県市にいて良かったと言ってもらいたい。
・他者へのジェンダーロールの押し付けだけでなく、自身へのジェンダーロールにとらわれているように見える人もいます。性別・年令、にかかわらず、その人自身を見つめるべきと考えています。
・男女平等にはならない。男と女は別の生物平等と言ってもどちらかを優遇しているようにしか見れない。勘違いしたフェミニストみたいに男性叩きするような思想が強い人等がいるから平等には程遠い。
・地域の中では、70 代以上の男性はやはり男女平等という意識が薄いように思えます。世代によっては、永遠に理解できない事なのかもしれないと思います。